

大雨警報で臨時休校となってしまった1学期終業式の日から実質的にスタートした夏休みが終わり、子どもたちの元気な姿が学校に戻ってきました。子どもたちに大きなけがや病気などの情報もなく、元気に2学期を迎えられたことをうれしく思います。

社会的に話題になっているように2学期が始まる9月1日は子どもが不安定になり、夏休み明けには課題を抱える学校が多いのですが、上矢作小学校では2学期当初の1週間は欠席者も少なく、5日間のうち3日間は全校全員出席という状況です。日頃の家庭でのご支援が姿となって表れています。どうもありがとうございます。

また、始業式前の25日に実施した「愛校作業」へのご協力もありがとうございました。おかげさまで運動場の草がきれいになり、よい環境の中で子どもたちが運動会の練習をはじめとして、休み時間の遊びやサッカーなどで走り回っています。

始業式の話の中では、今年度の学校のめざす姿である「笑顔と思いやりのあふれる学校」を再確認しました。夏休み中の出来事として、全英オープンゴルフで日本人として42年ぶりに優勝した洪野日向子選手の話や夏の全国高校野球で準優勝した石川星稜高校のチームのモットーである「必笑」を話題にしながら、笑顔によって、余分な緊張をしないで自分の実力を発揮することができること、笑顔が周りの雰囲気や和ませてよくすることを話しました。また、みんなが笑顔になるためには、相手の立場に立って考える「思いやり」も大切で、日常生活の中での行動や言葉づかいも考えていきたいことを話しました。

1学期末に子どもたちに実施したあいさつの自己評価では、「笑顔でできる」という項目が、一番評価が低かったのが、今学期は課題としてがんばっていききたいとも話しました。

12月26日までの85日間の2学期です。9月14日に予定されている小中合同運動会へ向けて子どもたちは今一生懸命取り組んでいます。11月16日に実施予定の「生活・総合発表会」も大きな行事になります。これらの行事を核にしながら、日頃の学校生活の中で、仲間と楽しく仲良く過ごし、学力を身につけられる「笑顔と思いやりのあふれる学校」にしていきたいと考えています。引き続きご支援ご協力をよろしくお願い致します。

防災の日（9月1日）の取り組み

1923年9月1日に発生し、10万人以上が亡くなった関東大震災から96年。今年の防災の日も午前中は各地域での取り組みに参加し、自宅で昼食をとって、午後からの6時間遅れの登校としました。

午後からの活動は、恵那市少年消防隊に入っている6年生の児童3人から、その活動内容と消火器の使い方について説明（右写真）してもらいました。その後、低中高学年に分かれて校内の様々な場所で地震が起きたらどうしたらいいかその対応を考えながら回って学習をしました。

まず、自分で考えて危険を回避し、自分の命を守ること、小学生である自分ができることは何かを考え、できることを増やしていくことを意識づけられるようにしました。



大規模災害の時には、普段の生活では当然と感じていることが通じなくなります。（例：電気がつく、水道の蛇口から水が出る、電話やケータイ・スマホが通じる、119番をすれば救急車や消防車がやってくる…）いつ災害（地震、豪雨など）が発生するか誰にもわかりません。いつ起こっても一番大切な「命」を守り、自分の力で生き延びていけるよう、この日のような学習を通して備えておきたいものです。